

A06a 中国西部域サイト調査の現況：東アジア望遠鏡への可能性を切り開けるか？
佐々木敏由紀、吉田道利 (国立天文台)

中国西部域は経度 75-100 度に位置し、汎地球的天体観測網を構築する上で重要な地域でありながら、天体観測環境についての情報が欠落している地域である。ヨーロッパ OWL 計画のなかで運用されている衛星データベースを用いた調査 (Sasaki 2008) の結果、経度 40-140 度の地域で天体観測に好条件なサイトとしてモンゴル国境近くの中国西部域が浮かび上がっている。一方既に、中国国家天文台と国立天文台は共同で中国西部域での天体観測サイト調査を 2005 年度より行っている (日本天文学会 2005 春、2007 年春)。

本講演前半では、現在進めている中国西部域二カ所、特にカシュガル市南西にある標高 4500m のカラスでのサイト調査の現況を報告する。後半では、衛星データでは晴天率が 70% 以上と予想されるモンゴル国境に近いハミ周辺のサイトの可能性について、予定されている 7 月下旬の現地視察を含めて報告する。

東アジア天文台建設候補地としての中国西部域の可能性に言及したい。